

# Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ/吉田清純 撮影/福田依子

学校法人ISI学園  
理事長  
荻野祥二郎



## 語学力、生活習慣、グローバル環境… 壁を越えた経験が、 世界で通用する医師を育てる

**グ**ローバル化がすすむ今、日本の大学では、グローバル人材の育成が共通の課題となっています。それは、医療の世界も同様です。今年、ISI国際学院留学センターから巣立った8人の学生が北京大学医学部を卒業しました。そのうち4人が中国の医師免許を取得し、8人全員が日本の医師国家試験に合格しました。グローバル人材として期待され、全員が大病院や地域の基幹総合病院への就職が決まり、医師としてのキャリアがスタートしました。

採用担当者の方は、「北京大学を出た学生たちは、中国語はもちろん英語まで使いこなせる。さらに実践力やコミュニケーション力が魅力だ」と褒めてくださいました。何が学生たちをそこまで成長させたのでしょうか。卒業生たちにたずねたところ、「北京大学医学部の教育環境に加え、留学という特殊な体験が自分たちを鍛えてくれた」と答えてくれました。北京大学医学部の教育は、極めて実践的な問題解決型の講義が中心であったそうです。また、「世界中から学生が集まるグローバル環境では、日本の常識が通じない。そのなかで自らを奮い立たせて現実と戦ううちに、生きる力と自信が身についた」とも語ってくれました。

北京大学医学部進学を目的としたコースを作った理由は、医学を志す若者たちに新たな道を提供したいと

北京大学への進学は、専門家による1年間の準備教育(中国語、物理、数学など)からスタートします。そして北京大学医学部が求める学力程度と認められた場合、大学進学への道が広がります。

自分を信じて、「冒険」を選択した若者たちが、今、日本の医療業界に新風を吹き込んでいます。どうせ苦労するなら、もう一步先にある自分の可能性に賭けてみる。そんな若者を応援したいと思います。

**【理事長プロフィール】**おぎの・しょうじろう●1943年生まれ。学校法人ISI学園理事長、専門学校長野外語カレッジ校長、ISIグローバル株式会社取締役会長、株式会社アイ・エス・アイ取締役会長、ISI国際学院理事長、天津大学国際教育学部名誉教授、青島大学客員教授。

**【学園プロフィール】**1977年、学習塾 信濃学院を設立。82年信濃予備校に校名変更。92年日本語学校 長野外語アカデミー開校。93年中国留学事業スタート。以降、日本語教育事業、専門学校事業、留学事業を中心にグローバル人材の育成に取り組む。